

## アサマリンドウに逢いに行く

### 十津川に咲く美しいリンドウ

秋が深まる頃、十津川村から果無峠を越えてゆく熊野古道小辺路にはアサマリンドウ(朝熊竜胆)が咲く。この美しい花を、今年も見たいと思うのだが、車の運転をやめた身には十津川村は文字通りの遠隔地となってしまった。

そこで、この花の名前の由来となった伊勢の朝熊(あさま)山に電車で出かけた。11月10日、朝早く近鉄電車に乗って朝熊駅で下車、集落のはずれから登山道(朝熊岳道)に入った。

### 古くからの霊山=朝熊山

この山は正しくは朝熊ヶ岳と言い、空海が修験の寺を開いたとされ、古来人々に尊ばれ、江戸時代には伊勢参りの人たちが多く登ったという。標高は555m、登山道はやや急峻だが道標である町(丁)石が設けられ、登山者の目安となっている。



その町石も数字を刻んだ石柱と、石仏の ↑この日見つけたアサマリンドウ 背後に文字を彫り込んだものと2種類があり、両者相俟って古道の趣を残している。

### リンドウの花期はおわっていた

その名を花の種名に冠せられた山だから、アサマリンドウが多いただろうとは私の勝手な思い込みで、最近ではめっきり少なくなったようだ。

道々、すれ違う人に「アサマリンドウは咲いていましたか」と尋ねたが、多くの回答が「もう終わってますよ」だった。何人目かの高齢男性がやっと「朝熊峠の向こうに、いくつか残っている」と教えてくれた。

### やっと見つけた一輪のアサマリンドウ

その高齢者の言葉を励みに、先を急いだが、花はなかなか姿を見せてくれない。山頂近くは舗装道路となっており、諦めかけた時、車道傍らの雑木林の中に一輪のリンドウを見つけて嬉しかった。

近くにはセンブリも咲いており、少し 町石⇒ 離れてマツカゼソウの小さな群落もあった。

### 山頂からは絶景が

山頂は開けた広場になっており、眼下に鳥羽市の街並み、そして秋の陽に輝く伊勢湾とそこに浮かぶ島々、その向こうには愛知県の渥美半島などが眺められる。日本百景に数えられているようだ。眺望を楽しみ、正午丁度に帰路についた。

### ←開花時のアサマリンドウ



下山路の各所でイズセンリョウの乳白色の実が、枝もたわわにみのっていた。

↓朝熊ヶ岳山頂からの眺望



### 盛会だった第14回サークル発表交流会

健生会友の会のサークル発表交流会が、今年も高田市さざんかホールで開かれ、市民、友の会会員ら400人余が参加し、各サークルの展示や出演を楽しみました。

展示室の一角では、山歩きクラブの会員さんたちが、絵画、切り絵、手芸品、押絵、写真、花の鉢植え、俳句など多彩な作品と共に、例会登山の写真などを展示し、多くの人たちが、感心しながら鑑賞していました。



### 続・続・二上山に咲く花々 18

#### ツワブキ (石蓐・艶蓐)



#### キク科ツワブキ属

今、咲いています。二上山ふるさと公園の展望台への階段の両脇にも咲いていて、花の少ない晩秋の山裾を鮮やかに彩っています。

この花を見ると、「ツワの佃煮」を思い出します。私が育った長崎だけでなく、九州各地で「ツワ」と呼んでツワブキを食べます。関西ではヤマブキは食べますが、ツワブキは余り食べないようです。

野山でツワブキの茎を摘み、皮をむくのは子供の仕事でした。指の爪の中まで黒く染めて灰汁(あく)抜き準備をしたものです。

葉は大きく、光沢があり、艶葉蓐(つやはぶき)から「つわぶき」への転訛説が名前の由来の有力説です。

初秋の季語ですが、秋から冬へと花期は長く、園芸品種も多く、家庭でもよく植えられています。